

# 全国学力・学習状況調査における 特別な配慮が必要な児童生徒への 対応状況について

国立教育政策研究所

教育課程研究センター研究開発部学力調査課

# 特別な配慮が必要な児童生徒への対応について

全国学力・学習状況調査において、視覚障害のある児童生徒が調査問題に取り組めるよう、「**点字問題**」及び「**拡大文字問題**」を作成している。

また、その他障害により通常の問題用紙による調査の実施が困難な児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒への配慮として、「**ルビ振り問題**」についても作成している。

**【対象人数】** ※平成31年度（令和元年度）調査で学校等から事前申告があった数

## （小学校）

- ・点字問題冊子対象：21人（約0.002%）
- ・拡大文字問題冊子対象：421人（約0.04%）
- ・ルビ振り問題冊子対象：12,622人（約1.21%）

## （中学校）

- ・点字問題冊子対象：54人（約0.006%）
- ・拡大文字問題冊子対象：378人（約0.04%）
- ・ルビ振り問題冊子対象：4,478人（約0.46%）

※（ ）内は調査実施日当日に調査を受けた児童生徒数全体に占める割合

# 点字問題

普段から点字で学習している児童生徒のため、調査問題を点字（・の凹凸）で印字したものを作成。

（委託事業者が専門家による点字問題作成委員会を立ち上げ、作成→国立教育政策研究所による確認・助言→問題を修正→完成）

また、教師用手持ち資料として、点字問題を活字にした問題を作成。

## （配慮例）

点字を使用して学習する児童生徒の情報取得の特性や点字による表現方法等を考慮し、児童生徒が調査問題で問われている内容及び解答に必要な情報を的確に把握し、問題の趣旨に沿った解答に臨むことができるように、例えば、次のような配慮を行っている。

### （１）問題文などの記述及びレイアウト等について

必要に応じて、文章や図表等の記述を変更したり、提示する順序を入れ替えたり、ページ配置を変更したりするなどの調整を行う。

### （２）図やグラフの提示の仕方について

提示する情報の精選を行った上で、表などに置換したり、必要かつ可能なものは点図（点を用いて示した図）で示したりするなど、提示方法の変更・調整を行う。

### （３）出題形式の変更及び代替問題について

児童生徒の学習内容や生活経験等を考慮し、通常問題の内容をそのまま点字化して出題することが適当ではない問題については、出題の趣旨等を踏まえた上で、出題形式の変更や代替問題の作成を行う。

# 点字問題

【調査問題の例】（小学校算数：令和2年度調査問題）

< 通常問題 >

3

ようたさんたちは、分数のたし算について考えています。

(1)  $\frac{1}{3} + \frac{2}{6}$  の計算をしましょう。

(2) ようたさんたちは、 $\frac{1}{2}$  と  $\frac{1}{4}$  を合わせると何しになるのかを考えています。

式は、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{4}$  になることがわかりました。

ようた   
 ようた

ようたさんたちは、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{4}$  について、図をよこに考えました。

ようた   
 はなこ   
 ようた   
 はなこ

4年 15



< 点字問題（墨点字版） >

3.2

3.3

< 点字問題（活字版） >

2. ようたさんたちは、 $\frac{1}{2}$  m と  $\frac{1}{4}$  m を合わせると何mになるのかを考えています。

式は、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{4}$  になることがわかりました。

ようた 「1mを次のページの図1の(ア)とすると、 $\frac{1}{2}$  mは図1の(イ)と表すことができますね。」

はなこ 「私も、 $\frac{1}{2}$  mを図1の(イ)と表して考えようと思います。」

図1

(ア) 1m

(イ)  $\frac{1}{2}$  m

(中略)

## (配慮内容)

点字を使用して学習する児童にとっては、「かさ」について、図からその量の大きさを捉えることが難しいため、手を横に動かすなどして、直接触れて量の大きさを捉えることができる「長さ」を用いた場面に代替。

# 拡大文字問題

弱視児童生徒の見え方に伴う負担等を軽減するため、通常問題で使用しているA4判の用紙をB4判の大きさに拡大したものを作成。

(国立教育政策研究所が作成→国立特別支援教育総合研究所による確認・助言→問題を修正→完成)

## (配慮例)

- (1) 原則として文字の大きさを22ポイントとし、UDデジタル教科書体とする。
- (2) 十分な字間及び行間等に設定する。
- (3) 必要に応じて、拡大率やレイアウト等を変更する。
  - ・縦置きから横置きにする。
  - ・設問と選択肢（解答欄）等が2ページに及ぶ際には、できる限り見開きにする。
  - ・図や表のタイトル等の位置は、当該図表の左上部を原則とする。 等

※作成に当たっては、『プロジェクト研究報告書 弱視児の視覚特性を踏まえた拡大教材に関する調査研究-弱視用拡大教材作成に関する開発及び支援について-「拡大教科書」作成マニュアル（拡大教科書作成へのアプローチ）』（平成16年3月独立行政法人国立特殊教育総合研究所作成）も参考にしている。

# 拡大文字問題

【調査問題の例】（中学校国語：令和2年度調査問題）

## <通常問題>

1 第二中学校の三年生は、卒業生から学芸会を聞いています。その中で、高校生の橋本さんが、書道パフォーマンスについて動画を  
を用いて話しています。次の「橋本さんの話」「場面1」で映っている場面、「場面2」で映っている場面」を読んで、あとの問いに  
答えなさい。

【橋本さんの話】

橋本①  
皆さん、こんにちは。青空高校の橋本です。今日は、私が所属する書道部で行って  
いる書道パフォーマンスの魅力についてお話しします。書道パフォーマンスでは、複  
数のメンバーで一つの作品を書き上げます。これが、書道パフォーマンスの魅力だと  
私は思います。  
早速ですが、四月の新生歓迎会で私たちが行った書道パフォーマンスの様子を  
紹介します。

書道パフォーマンスの動画を途中で視聴する。

場面1

中国-1

## <拡大文字問題>

【橋本さんの話】

場面1

皆さん、こんにちは。青空高校の橋本です。  
今日は、私が所属する書道部で行っている書道  
パフォーマンスの魅力についてお話しします。  
書道パフォーマンスでは、複数のメンバーで  
一つの作品を書き上げます。これが、書道  
パフォーマンスの魅力だと私は思います。

### (配慮内容)

通常問題では【橋本さんの話】を枠線で囲っているが、拡大文字問題では話の内容を捉えやすくするために枠線を取り除き、イラストの位置を変更。

# ルビ振り問題

障害により通常の問題用紙による調査の実施が困難な児童生徒や、日本語指導が必要な児童生徒に対する配慮として、ルビ振り問題を作成。

## 【調査問題の例】

(小学校国語:令和2年度調査問題)

記事がありました。わたしは、プラスチックごみが生き物に深くなえいきょうをあたえていることにアひじょうにおどろきました。かん境省のホームページによると、世界の

ア	
---	--

※解答は、解答用紙に書きましょう。

(1) 四、岩田さんは、(下書き①)と(下書き②)を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた。(1)と(2)の問いに答えましょう。

(中学校数学:令和2年度調査問題)

5 ある中学校の3年生の男子生徒35人がハンドボール投げを1人1回ずつ行い、記録をとりました。この記録の中央値は24mでした。このとき必ずいえることを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア 35人の記録のうち、最高の記録と最低の記録の差は24mである。

イ 35人の記録のうち、最も多く出た記録は24mである。

ウ 35人の記録の合計を35でわると、24mである。

エ 35人の記録を低い順に並べると、低い方から18番目の人の記録が24mである。

## (参考) 調査環境の配慮の例

- ・ 障害のある児童生徒については、各学校の判断により、当該児童生徒の障害の種類や程度に応じて、調査時間の延長、点字・拡大文字・ルビ振り問題用紙の使用、代筆解答用紙の使用、別室の設定などの配慮が可能。

### (例1) 視覚障害のある児童生徒

	点字による教育を受けている児童生徒	通常の調査問題の読み取りや解答(回答)用紙への記入が困難な児童生徒
解答(回答)方法	点字、代筆による解答(回答) (または墨字も可)	自筆、代筆による解答(回答)
調査時間	最大1.5倍まで	最大1.3倍まで
調査場所	別室	
調査内容	通常の調査問題と同じ内容(点字になじまない一部の問題を除く)	通常の調査問題と同じ内容
使用するもの	点字問題用紙、点字用解答(回答)用紙	拡大文字問題用紙(原則UDデジタル教科書体22ポイント)
上記以外に障害の程度に応じて配慮を可能とする事項	点字器等の使用、調査問題の読み上げ、調査時間中を含めた付添者の同伴など	拡大鏡等の視覚補助具の使用、照明器具の使用、調査問題の読み上げ、調査時間中を含めた付添者の同伴など



# (参考) 調査環境の配慮の例

(例2) 肢体不自由、病弱等その他の障害のある児童生徒

	解答（回答）用紙への記入が困難な児童生徒	体幹の機能障害により座位を保つことができない児童生徒又は困難な児童生徒、体幹又は両上肢の機能障害が著しい児童生徒	病弱（慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規則を必要とする程度）な児童生徒又はこれに準ずる児童生徒
解答（回答）方法	代筆による解答（回答）	自筆、代筆による解答（回答）	
調査時間	最大1.3倍まで		
調査場所	別室		
調査内容	通常の調査問題と同じ内容		
上記以外に障害の程度に応じて配慮を可能とする事項	車椅子の使用、杖の使用、調査問題の読み上げ、調査時間中を含めた付添者の同伴など		